

公共図書館のがん情報サービスの課題（第1報）

－提供する資料・情報の視点から－

磯部ゆき江¹⁾，佐藤正恵²⁾，三輪眞木子³⁾，

¹⁾日本図書館協会，²⁾千葉県済生会習志野病院図書室(JHIP 上級)，³⁾放送大学

1. 目的

本研究の目的は，公共図書館が提供するがんをはじめとする医療健康情報サービスについて，提供する資料・情報（インターネット，データベースや電子書籍含む）の視点から，実態と課題を明らかにすることである。また，公共図書館と医療専門図書館との資料やサービスにおける連携についても考察する。そのためアンケート調査及びインタビュー調査を行う予定だが，第1報としてウェブサイト調査とアンケート予備調査の結果を報告する。

2. 方法

都道府県立図書館（47）・政令指定都市立図書館（20）のウェブサイトにおけるトップページの医療健康情報の有無を目視で確認し，ない場合は，サービス案内，サイトマップ，サイト内検索などでサービスの有無と内容を確認した。

また，1県の県立・市立図書館の担当者34名に予備的なアンケート調査を行い，28名から回答を得て（回収率82%），医療健康情報提供に関する課題を把握した。

3. 結果

調査結果の概要を次に示す。

3-1. ウェブサイト調査

- トップページに医療健康情報ページへのリンクがあるものは都道府県立16（34%），政令市立2（10%）であり，医療健康情報ページのほとんどは充実した情報を発信している。他機関との連携やレフェラルサービスもある。
- 医療健康関連の情報がないサイトは県立6（13%），政令市立6（30%）。
- 医療健康関係コーナーの紹介は都道府県立24（51%），政令市立8（40%）。
- 医療健康DBについては，「医中誌Web」が都道府県立11（23%），政令市立2（10%），「JDreamIII」が都道府県立12（26%），政令市立4（20%）。

3-2. 公共図書館における医療・健康情報提供に関する予備調査

- 選書・収集・除籍の規定等はあるが，理解は十分ではない。
- 「医療に関する法令や仕組み」「医療・健康に関する知識」「医学書や雑誌など情報源に関する知識」「医療・健康情報に関連するデータベースに関する知識」いずれも必要と考えられている。
- 「他の機関や専門家との連携」は「なし」が最も多い。
- 研修機会は「なし」次いで「自己研鑽」が多い。
- 自由記述では，「信頼できる情報はどれか」「選書基準がわからない」などが多かった。